

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 江川 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

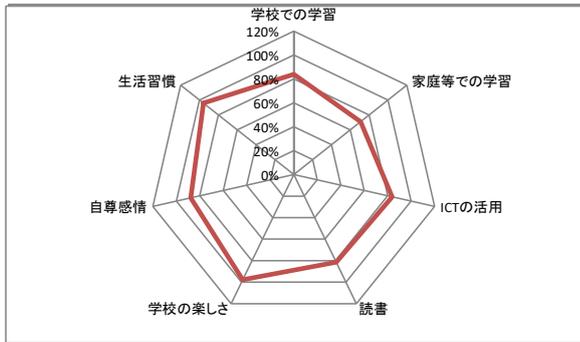
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っている。 特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全校平均を若干下回っている。 「数と計算」についての正答率は、全国平均を上回っている。 「図形」についての正答率は、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断する問題の正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均をやや上回っている。 「エネルギー」を柱とする領域についての正答率は、全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して改善し、自分の考えをもつことができるという問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	昆虫の体のつくりの特徴を基に、昆虫であることを説明する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響もあり、友だちと一緒に活動できる学校が楽しいと感じることが多くなっている。学校行事ももりつつあり、活動を通して楽しみを実感できる機会も増えている。それに伴って、学校での学習も楽しいと思えるようになってきている。 ・コロナ禍の影響で、家にいる時間が長くなり、基本的な生活習慣は身に付いている。反面、家庭等での学習は定着せず、家庭学習の時間が短い。自分で課題を設定して取り組む自主学習ノートの活用や通信などで保護者への啓発を行っていく必要がある。 ・昼休みの図書室の開放日を増やしたり、図書室でのイベントを増やしたりして図書室に行く工夫を計画するなど、読書をする環境や時間を設けているが、まだまだ1日あたりの読書時間が短い児童が多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○全教科の授業の中で、「話し合う活動」や「振り返る活動」を取り入れ、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ○全教職員で「わかる授業」「楽しい授業」の創造に取り組み、児童の学習意欲を高め、主体的な学習ができるようにする。 ○国語の漢字学習や算数の練習問題等、朝の学習や午後のチャレンジタイムでの補充学習の内容を充実させていくことで、児童の基礎的な学力の定着を図る。 ○より「わかった」「できた」を実感することができるように、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○学年×10分間の家庭学習について、全職員で家庭学習の内容・量等について共通理解を図る。 ○家庭学習の内容を改善していくために、教室内や校内に自主学習の仕方やノートモデルを紹介するコーナーを設置し、児童の家庭学習への意識も高めていく。 ○懇談会や配布プリントを拡充し、家庭での学習習慣をつけるための保護者の理解と協力を求める、連携を図る。
